

KSKR

NO.28



パンジー だより

発行 1998年5月
編集 クリエイトハウス
"パンジー"

五十嵐 千佳



耳をすませて心をとぎすませて



新しい年度が始まろうとするこの時期になると、毎年のように、これまでのことが鮮やかによみがえってきます。

本来、パンジーは、知的障害を持つ人たちが地域で「自分たちののぞむ生活」ができることと、そのための支援体制を構築するために作ったものです。そして、この5年間、パンジーでも確実に実践を積み重ねてきましたし、国レベルでも地域生活支援のための新しい施策が創設されてきています。

しかし、奥深いところでは何も変わっていないのではないかと思うようなことが、次々に起こって、少し落ち込んでいます。例えば、親からすすめられて入所施設に行かされそうになっている人の事、無理矢理中絶させられてしまった人のこと、その他さまざまどうしてそんな事が、と思うこと・・・。

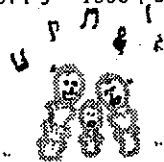
すべてが、知的障害を持つ人たちを「特別の人」と考えることから始まっているように思えます。「今の生活に満足している」「私が悪いんだ」という言葉の奥に、そうしないと生きてくることができなかった「とうていばかり知ることができないだろう」諦めをみてしまうことがあります。

私たちは、「更生と保護」の言葉とひきかえに、彼や彼女らが、私たちと同じように喜びや悲しみや怒りや憎しみを持ち合わせていることに、気づかないふりをしてきたのではないのでしょうか？

耳をすませて心をとぎすませて、封じ込めさせられてきた思いにふれたいと思います。そして、怒りやくやしさを共有するなかから本当の思いをみつけていてほしいと思います。そうしていかない限り、「共生」や「ノーマライゼーション」という心地よい言葉はみせかけだけの色あせたものとなるような気がします。

(よしみ)

こんにちは、パンジーパンやです



4月より新メンバーになり、まだまだ慣れないまま半月が過ぎました。最近暖かくなってきて、メンバーも職員もパンの売り込み、販売などに意欲的に取り組んでいます。

先月の26、27、28日と、パンジーのご近所さんである高齢者サービスセンター（箕輪口にありますが）で弥生祭りという大きなお祭りがありました。人がたくさん集まる大きな楽しいお祭りです。センター側のご厚意により、そこでパンジーのパンも販売させていただくことができました。

高齢者サービスセンターは、以前から急な販売—たとえば「パンがたくさん余ってしまったので今から販売に行かせてほしい」といったわがままも、「いいですよ」ととても快く受けてくれる数少ないところです。この「いいところぶり」はまた別の機会にでもお伝えするとして、祭りでの販売は、大成功に終わることができました。それはメンバーにも私たちにも勢いをつけてくれました。

これからいよいよ学校も始まってきて、パン屋は忙しくなってきます。この気持ちを忘れないように新年度、がんばっていこうと思います。（ゆきめ）

クリエイティブ部門だより

今年度のクリエイティブ部門の目標。

今までより、地域の人々とのつながりを持つこと。

昨年度は、夏に販売した「元気がでるTシャツ」、そして秋より始めたチョコレート販売を通してたくさんの人々と交流をもつことができました。ある場所でパンジーのTシャツを着ている人を見かけたり、思いもよらないところからチョコレートの注文が来たりしました。そして園芸の作業で育てた苗のチラシをみて、地域の学校から注文が届いたりもしました。

さて、今年度はどういうふうになれば目標が達成できるのか、いろいろと模索しています。例えば、花の苗を売るだけではなく、会社などの玄関に植えにメンバーが行くというのも一つの方法だと思います。

6年目を迎えたクリエイティブ部門。商品を守る他にメンバーがより活躍し、地域とつながることができる年にしていきたいと感じています。（はまだ）

わくわくのページ

新しい出発のとき

自立生活センター「わくわく」より

4月、新年度を迎えて、わくわくのことに関わって変化したことがふたつあります。

ひとつめは、ガイドヘルパー制度の1ヶ月の利用制限時間が20時間から32時間が増えたことです。これは、これまでメンバーと私たちが東大阪市との交渉で繰り返し要求してきて、やっと勝ち取ることができた成果だと思います。でも、喜んでばかりはられません。増えたと言ってもたったの32時間です。週末の外出に1回7～8時間使うとしたら、月4回しか外出できないということになります。毎日、通院や作業所への通所で往復4時間くらい使う人には、わずかに8日間しか使えないということです。更に、これ以外にも、障害の等級による制限などまだまだ改善しなければならない点がたくさん残っています。ガイドヘルパー制度の目的には、「障害者の社会参加の促進」をはっきりと掲げている訳なのですから、さまざまな制限を速やかに撤廃して、利用者が本当に利用しやすい制度に変えていくべきだと思います。

ふたつめは、これまで長い間ガイドヘルパーとして活躍してくれた人達の中で数人の方が、卒業・就職の為にパンジーに來られなくなりました。いろいろな経験をする中で、「メンバーの横にいて一緒に楽しい時間を過ごすこと」を力まず自然体でできるヘルパーさん達でした。会えなくなるのは寂しくてとても残念ですが、4月は誰にとっても「新しい出発のとき」。パンジーで出会った人達とかけがえのない経験をどうか忘れずに、それぞれの場所でがんばって下さい。

と、いうわけでまたまた、ガイドヘルパーが足りなくなっています。あなたご自身はもちろん、知人・友人でできる方がいればどんどん連絡下さい。

(まめやん)

お知らせ

5月10日(日) ふれあい祭り、5月30日(土) パンジー祭りの為、通常のわくわく活動はお休みします。6月は予定がきまり次第ご連絡します。

なんと、23日間のショートステイでの宿泊



3月6日午後、事務室の電話が鳴りました。東大阪市内の在宅の障害者がいる家庭に訪問している保健婦さんからです。父子家庭のMさん宅である。お父さんが腸閉塞の疑いで緊急入院をすることになり、ショートステイを利用したいとのことでした。

すぐに、私がMさん宅に出向くと、保健婦さん、ホームヘルパーさん、そしておなかが痛いはずのお父さんまでが、入院の準備、Mさんのショートステイの準備とあわただしくしていました。

私は、Mさんの薬のこと、発作のこと、必要な介護のこと、連絡先を聞き、荷物をあずかって、これもまたあわただしくMさんとパンジーに戻りました。パンジーに着くと、ちょうど仕事を終えた麻窪さんと出会った。彼女の話では、Mさんとは学校時代に一緒だったらしく、麻窪さんが声をかけると、知り合いに会ってほっとしたのか、Mさんはにっこりしました。

それからMさんは、2回のわくわく活動、日々のクリエイティブの作業、食事、入浴、買い物の外出とパンジーのメンバーとともに過ごしました。すっかりパンジーでの生活にとけ込んだ3月28日、お父さんは、検査の結果幸いにして手術をするにはいならず、Mさんは自宅へと帰っていきました。今、Mさんはどんな生活をしているのでしょうか。 (みつよし)

グループホーム日誌 (麻窪みどりさんにインタビューしました)

Q: 料理をつくっているそうですが?

A: 池内くんのおきに、みぞ汁をつくった。おいしかった。みんなもおいしいと言っていた。

Q: さいきん、あゆむはどう? かわったことは?

A: もっとにぎやかにしたいと思っている。その方が、トランプとかできてい
いだろう。5月に、ハイマートに引っ越しをする。つばさの近くになって、
さみしくなくなる。いつでも、(つばさで飼っている)ハムスターに会いに
いける。

引っ越しをして、どこに何をおこうか楽しみにしている。前にもハイマートにおつたから、私は慣れているけど、陽子さんと慣れるまで、ちょっと時間がかかるかな。

3月であゆむに入っていた介護者がやめたけど、もっとおつてほしかった。でもしゃあない。最後の日に花束をプレゼントした。喜んでいた。また、遊びに来るだろう。アラスカの写真を送ろうかな。



春が来ました。パンジー厨房にも6年目を迎えてきれいな花が咲きました。そうです。この4月から川口さん、河合さんというフレッシュな女性2人がアルバイトで、そして新メンバーのお母さん2人がそれぞれ週1回ずつボランティアで参加して下さることになりました。以前にもましてカウンターの前には食欲を刺激されたメンバーが並び、プラスアルファの男性職員がうれしそうに厨房に現れる回数が増えるなど、若き女性の威力をまざまざと感じながら、負けじと、私自身もリフレッシュしなければ、と心新たにしています。(河野)

4月から、ショップで
み合わせでスタートし

U君は火曜日の午前中
曜日の店番に決まった日
え中だった。1週目火曜

曜日のことを思っているらしい。週2日働いてみようかなと口に出しながら落ち着かない。そのうち「うーん、うーん」と手を震わせ、いらいらし始めた。

時々「怒りたくなる」彼だが、必ず理由がある。暫くすると、しぼり出すような声で「やっぱり、ショップに来るの1日だけにするわ。金曜日にくる」。

ずっとそのことを考えていたんだろう。そう決心したら元気一杯、さわやかな笑顔になった。

N君は、「ショップで働きたい」と自分から申し出た(久々にさをり織りを再会したあの彼である)。ショップの店番という仕事柄、一緒に考えて3つの約束をした。大好きな煙草と缶コーヒーはセーブする、店の電話を私用に使わない、等。

彼曰く、「お客さんがいる時は煙草はやめて、いない時に吸う」。

自分で「煙草は3本まで」と決めていて、今、意志固く実行している。

それぞれにとって、4月は新たな始まりの時のようだ。(はたなか)



働くメンバーも新しい組
た。

に働くことになったが、金
さんと一緒に働きたいと考
日、はりきって来たが、金

DORAEMON^{かい}会のページ

しんやくいん 新役員がきまりました

どろえもん会・役員会^{かい}のせんきょが おこなわれ、あたらしい役員^{やくいん}さんが きまりました。

さっそく、新^{しん}どろやく会^{かい}のメンバーにその“いきごみ”をきいてみました。

ぎちょう

福田直美さん

がんばるよー!



ふくぎちょう

梅原義教さん



まー、あかるく
がんばって
1年間おもしろく
するためにがんばら
なあかん。

青山正さん



みんなで
ボーナスはいる
ようにがんば
ろー!

しょき

あさくぼ
麻窪みどり



みんなで
わからあえる。
どらえもん会に
したい

いくたすすむ
生田進さん



パンジー祭りの
実行委員にも
なりました

たぬき



かわののぶたか
河野伸孝さん

いがらしるか
五十嵐千佳さん

おー!



たぬき・・会をもちあげる役

これから
がんばる!



どらえもん

しみずかずお
清水一男さん

まいりました。
ドラえもんは、人をたすけるので
ぼくは みんなをたすけようとおもう。



みなさーん、がんばってください。

言葉とコミュニケーション (1)

中新井 滯子

「ことばさえ出れば」は、お母さん方から何度も聞いた切実な願いだ。子供が幼かった頃は、ことばさえ出れば多くの心配事は解決すると期待されていた。成人した今は、要求が周囲の人にわかってもらえない息子のいらだちや悔しさを思んばかりのことだ。話し言葉がそのままコミュニケーション能力につながらないことは百も承知で、それでもD君のお母さんは言う。「ことばが欲しい!!!」と。

ことばに関しては、①話しことばのない人 ②ことばはあるが伝達の下手な人 ③マヒなどで話すのが困難な人 ④話したくない人 ⑤話がしたいので、同じ話を繰り返す人などメンバーはそれぞれに苦勞をしているようである。今回は話しことばを持たないBさんとのコミュニケーションについて報告する。

彼女は時にスタッフの顔をのぞき込み、笑顔で視線を合わせる。スタッフが動かないと強引に手をひっぱって欲しい物の前あたりへ連行するが、直接物へアプローチしたり指さしすることはない。彼女のお気に入りにはヒモカラジカセの音楽なので、スタッフは容易に彼女の意図を推察することはできるのだが、たとえ達成できなくても彼女はニコニコ笑っている。そしてもう一度最初からアタックするのだ。それも彼女なりに意図が達成されそうな人(スタッフに限られている)を選んでいいる。本当に欲しい物だけにしるスタッフへの働きかけがこれほど持続し焦点づけられてきたのは注目すべきことだと思っている。

一方でここ半年位、Bさんとの作業の中で「1つ ちょうだい」を繰り返してやってきた。トレイの中のハンガーの部品を私に手渡す行為でもってこちら側からの要求に対する反応を確かめたい、と考えている。最近では6割ぐらいの確率で1つだけをつまむことができるが、こちらが手を出して受け取らないとそのまま落としたり放り投げたりしてしまう。私はその都度「ハイ ありがとう」「あっ残念」「惜しいなあ」など相づちをうちながら彼女からの手渡しを促している。物を介してのやりとりで人とのコミュニケーションの存在と楽しさに気づいてくれたらと、私は人差し指を1本立てたおちょうだいの手話(?)で彼女にしつこく迫っているのだ。

ところが、そんな努力とは無関係にBさんは居ながらにして人を優しくする力を持っている。他の人の名前はほとんど知らないI君も彼女の名前は言えるくらい皆が声をかけている。不機嫌なJ君も彼女の顔を見るだけで柔和な顔つきになる。そんなBさんに何を今更と思いながら、横に座った時はやっぱり「1つちょうだい」をやっている私である。

次回よりしばらく、言葉とコミュニケーションについて考えていきたい。

『聖者の行進』

私たちはこう見た！ パンジー編

麻窪みどりさん

- ・ 思い出すのもイヤ！

平川智彦さん

- ・ 怖かった。ピストルが怖かったのでうるさかった。
- ・ しばかれたら痛いので、見ててイヤだった。

肌勢俊一さん

- ・ 熱い湯かけられたりしたらやっぱり熱いしイヤ。やけどする。正座させられたら足がしびれる。お金もってても取られたりしたらどうもできない。
- ・ (永遠くんの) 言葉はおかしいな。
- ・ (こういったドラマは) あんまりええ気はしない。あんまりおもしろない。

梅原義教さん

- ・ 永遠くんは悪くないのに、裁判で男の人(被告)がウソばかりついていたから、それが腹立った。
- ・ (こういったドラマは) 作ってもいいけど、まじめに取り上げなあかん。(障害者を)ほんまに馬鹿にしている。もうちょっと考えてほしい。

「聖者の行進」が放映されて以来、どらえもん会で何度か話し合ってきた。メンバーたちの感想は、上記しているインタビューにほぼ集約される。

このドラマは、知的障害者の虐待について、水戸事件、サングループの事件と似たような設定でとりあげている。しかし視聴者に何を訴えたかったのかがあいまいだ。単に虐待の事実だけをセンセーショナルに伝えたかったのではないだろうかとも思ってしまう。

影響力の大きいテレビで「重い」ものを題材とするのなら、知的障害を持つ当事者の人達が、「イヤなところもあったけどよかったよ！」と言えるものにしてほしかったと思う。

(よしたけ)

ガイドヘルパー物語



中藤加奈子

たくさん友達ができました。一緒にいるととても楽しくて、あたたかくて、手をつないで街を歩ける友達—それは、メンバーのみなさんです。いろんな事を発見します。道がガタガタで困ったり、トイレの整備の悪さにあきれたり、席を譲ってくれた学生に感動したり。もちろん、メンバーの好きな事、どんな事が楽しいのか……。そして、私自身の新しい一面。いろんな事を学んでいます。人とふれあう事の大切さ、相手を思いやる心。いつもうまくいかないことがあると、逃げ腰になっていた私が、失敗してもヘルパーは続けようと思っています。

もっと、ヘルパーとして自覚を持って、技術的なことや内面的なこと、情報アンテナなどを磨いて深めていきたいと思います。そして、メンバーと共有する楽しさの幅が増えればいいな、と思います。

たくさん、いいことがありました。これからもいろんな事を発見し、学んで、一緒に感じていきたいです。

え！ え！

短期入所事業（ショートステイ）がなくなる……

東大阪市は、ショートステイ事業に対して運営費補助金を出して、民間施設が委託事業を実施しやすいようにしてきました。そのことは、サービスを拡げていくものとして、市の独自性があり、評価できるとしていました。しかし、民間に委託することのひきかえとして、高井田障害者センターでのショートステイを縮小、さらには廃止の方向で進めています。

私たちは、3月23日にフレンズ、RUN（ラン）とともにつばさグループとして福祉部長・栗山雅之氏に対して要望書を提出してきました。市当局

は、重度心身障害者のショートステイの委託先が決まるまでは、継続運営を行うとのことでした。しかし、廃止の方向は変わらないようです。私たちも「既存のサービスをなくすのはおかしい。サービスの低下だ」「市独自の特色ある福祉行政を望む」「再検討を！そして話し合いの場を望む」と、当事者・親・支援者の立場から意見を述べてきました。東大阪市の良識ある福祉行政を望みます。以下、要望書です。 (みつよし)

1998年3月23日

東大阪市福祉部長
栗山 雅之 殿

つばさグループ 代表 楠 敏雄
クリエイティブハウス「パンジー」

要 望 書

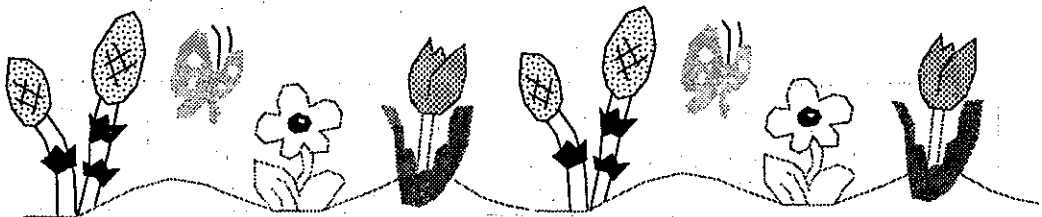
高井田障害者センターの短期入所事業（ショートステイ）は、「家族が病気などになった時に、地域で安心して利用できる場所」として、障害児（者）を持つ保護者をはじめとした市民団体の強い要望でできたものです。

本来、ショートステイは、障害当事者や家族が365日24時間必要などきに安心して受けられるサービスとして充実していかななくてはならないものです。

そして、その拠点としてあったはずの高井田障害者センターでのショートステイの廃止は、明らかにサービスの低下であると考えます。

さらに、東大阪市民間施設や病院への移行で対処しようとしていますが、現在の補助金では、高井田障害者センターと同じような医療面を含めた体制やケアを確保することはできません。また、今回の東大阪市の方針に、ショートステイを実施している民間施設の中にも、不安や戸惑いを持ち、廃止を決定したところもあると聞きます。このような状況では、特に重度の障害を持ち多くの介護が必要な人や医療面のケアが必要な人ほど、サービスを受けられないことも予想されます。

そこで、本市において中心的役割をになうべき、高井田障害者センターのショートステイを、今後も運営していくことを強く要望します。



書き損じハガキ、切手(未使用)を待っています!

ご家庭や会社などで書き損じのハガキ、スタンプを押していない切手など眠っていませんか? 自立生活部門ではこれらを集めて活動資金にあてたいと思っています。ご協力をお願いします。

ご協力ありがとうございます

<後援費を振り込んでいただいた方> (敬称を略させていただきます)

竹内とみえ 梶山太一 田中誠 木村多加緒 岩佐フミ子 石崎邦彦
佐々木勉・君江 墳下千里

<カンパ・寄付をいただいた方>河野恵子 大内 西尾心治

<書き損じハガキをお送りいただいた方>高橋恵美 長田多美 岡本智
梅本ルミ 東澄江 大西溢恵 柏田勝幸 山口 飛鳥井啓子 岸本啓子
青山伸郎

<外へ飛び出すためのカンパをいただいた方>石崎邦彦 中藤加奈子 加地律子



パンジーのメンバーが講演に行きます

障害者も健常者も共に暮らしやすい社会について、一緒に考えませんか。学校の教師や生徒、知的障害の人々、市民講座、ヘルパー対象など、どこへでもでかけてゆきます! 詳しくはパンジーまでご連絡ください。【3月・4月の実績】大阪府総合福祉センターガイドヘルパー研修会

ピープルファースト世界大会inアラスカカンパをありがとうございました。

4月22日、世界中の知的障害者が集うピープルファースト世界大会に向けて出発しました。みなさまからいただいたカンパは参加メンバーの旅費の一部にあてさせていただきました。アラスカのご報告は、次号の「パンジーだより」で報告します! ほんとうに、ありがとうございました。



パンジーでは後援会員を募集しています。



賛助会員	1口	1ヵ月	500円
本会員	1口	1ヵ月	1,000円
特別会員	1口	1ヵ月	5,000円
郵便振替番号	00950-1-300551		

クリエイティブハウス「パンジー」

編集人 東大阪市東鴻池町2-4-8
クリエイティブハウス TEL:0729-63-8818
「パンジー」 FAX:0729-63-8825

発行人 関西障害者定期刊行物協会
大阪市城東区東中浜2-10-13
緑橋グリーンソウルフ